

鉄研通信

第十八号

学校法人 清風学園

鉄道研究部発行

発行日 令和四年八月二十三日

編集・鉄道研究部 部長

全国高校生地方鉄道交流会に岬町に参加

清風鉄研は、八月五日～七日にかけて、大阪府最南端の町である岬町にて、南海電気鉄道の協力の下行われた「全国高校生地方鉄道交流会」に参加した。この交流会の趣旨は、高校生の目線から鉄道の新たな魅力を引き出し、ローカル鉄道の未来を切り開くというものだ。

今回のテーマは「閑空利用者を多奈川線に誘客する方法」と「地域創生と鉄道の役割」。多奈川線とは岬町内を走る南海電鉄の路線で、利用客減少が問題となっていた。参加校はそれぞれこのテーマに基づいて研究をし、活性化案を発表した。

交流会初日、私達は南海電鉄の千代田工場にお邪魔させていただいた。工場見学に加え、様々なお話を伺うことができ、参加部員一同は貴重な体験をさせていただいた。余談だが、工場に向かう道中の河内長野駅で落雷に見舞われ、駅が一時停電するというハプニングがあった。今となっては笑い話である。

さて、交流会二日目は午前中に岬高校にお邪魔した。あいにくの天気だったが、屋上からの眺めがとても素晴らしかった。その後岬高生徒会の案内で、道の駅「みさき 夢灯台」に移動し昼食を食べた後、多奈川線沿線でフィールドワークを行った。私達は三つの班に分かれ、それぞれの持ち場で多奈川線利用者や地元住民の方に九つの項目からなるアンケートを実施。利用者や住民の貴重な生の声を聞くことが出来た。御協力を頂いた方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。この日多奈川線では、この交流会のために、普段は加太線などを走行する「めでたいでんしゃ」が特別に走っており、我々鉄道ファンは大興奮であった。住民へのアンケートでもほとんどの方が岬町について「景色が綺麗だ」と回答されていたが、実際訪れてみるとまさに風光明媚という言葉がピッタリの町であると感じた。

そしていよいよ私達が案を発表する三日目を迎えた。緊張の面持ちで会場に向かう。私達は三番手であった。他の学校の発表には、私達が思いつかなかったような意見もあり、感心しつつも焦慮に駆られた。そして私達の番がやって来た。私達は現状の多奈川線の改善点の指摘や、お得な切符の販売、活用可能な観光材料とその活用法の提示に加え、SNSの活用についてなどを、前日のフィールドワークを踏まえて発表した。

結果は残念ながら力及ばず入賞とはならなかった。しかし、私達自身の頭で考え、現地を調査し、そして大勢の聴衆の前で自分たちの意見を発表できたことは、大変貴重な経験であり、また私達が清風鉄研として初めて発表会に挑戦できたこととても嬉しく思う。今回の交流会を踏まえ、今後も清風鉄研はローカル線の活性化に取り組んでいく。いつか私達はその地域の活性化に貢献できれば幸いである。



▲多奈川駅にて記念撮影をする参加部員達
(令和4年 8月7日)